

施策（５）地域における子どもの居場所づくり ～笑顔になれる、ぼくとわたしの快適空間～

1 現状・課題及び方向性

<現状・課題>

- 少子化が進み、地域との関わりが薄れる現在、子どもがありのままの自分を表現し、安心して過ごすことのできる場所、社会性を育むことのできる場所をつくっていくことの重要性が増しています。
- 子どもの居場所は、子どもが「気軽に」「いつでも」「だれでも」立ち寄ることのできる場所であることが必要です。また、大人の一方的な思いにならないよう、子どもを中心に据えて取り組むことが必要です。
- 子どもの居場所には、子どもの遊びの能力を引き出す大人、将来の手本となる大人、心のよりどころとなる大人の存在が欠かせません。
大学生や高齢者など、子どもの成長を促すためには、多世代との交流の場づくりが必要です。
- 地域の子どもの居場所となる「子ども食堂」の取り組みは、市内で急速に広がりをみせています。

<方向性>

- 子どもにとって生活の主要な部分を占める遊びや社会体験、様々な人と交流できる、子どもに開かれた「居場所づくり」を進めます。
- 大人から居場所を与えられるという枠を越え、子どもがその場を自分の場所にしていくという主体的な営みが形成されるよう留意しながら取り組みます。
- 子どもの居場所づくりは、子どもを接点とした新たな地域づくりの萌芽となり得ます。子どもの居場所が、多世代交流の場となるよう取り組みます。また、将来的には、虐待を含め、気になる子どもや家庭に必要な支援につなぐプラットフォームとして機能することを目指します。
- 「居場所」で過ごした子ども達が、その後、先輩として、頼れる大人として、自発的にその居場所を支える存在となっていく自然なサイクルが生まれるよう、地域団体やNPO等とも協働し、取り組みを進めます。
- すべての子どもが、自然と足を向けることのできる、楽しく魅力ある居場所を、地域の中に多く生み出せるよう、地域の人々の力を借りながら取り組んでいきます。「子ども食堂」は、その代表的な取り組みであり、今後さらに力を入れていきます。

2 施策の柱

①	子どもの遊び環境の充実 安全性に配慮しながら、公園や屋内施設など、これまで整備してきた様々な遊びの環境の充実に取り組む。
②	地域団体、NPO との協働等による子どもが主役の居場所づくり 地域の力を得ながら、子どもが主体性をもって遊びを含む様々な活動を行うことができる、子どもが主役の「居場所づくり」に取り組む。代表的な取り組みとして「子ども食堂」の拡大に取り組む。

3 成果指標

子どもの遊び場や公園に対する満足度	【増加】
子育て支援施設（子どもの館、子育てふれあい交流プラザ、児童館）の満足度	【維持】
市内における子ども食堂の開設数	【増加】

4 施策を推進する主な取り組み

柱① 子どもの遊び環境の充実

No	取り組み名 担当課	概要
54	子どもの館・子育てふれあい交流プラザの運営 子ども家庭局・総務企画課	子どもの豊かな感性や想像力を育み、子育て中の保護者が持つ負担や不安感を解消するための総合的な子育て支援拠点施設として、「子どもの館」、「子育てふれあい交流プラザ」の運営を行う。
55	学校施設開放事業 教育委員会・指導第二課	地域スポーツの普及および児童の安全な遊び場の確保のため、学校教育に支障のない範囲で小・中学校の体育施設を市民に開放する。
56	児童館の運営 子ども家庭局・子育て支援課	児童に健全な遊びを与えることで、健康を増進し、情操を豊かにすることを目的に運営するとともに、母親クラブ等の地域活動の育成助長を行う。
57	地域に役立つ公園づくり事業 建設局・みどり・公園整備課	身近な公園の再整備について、小学校区単位で開催するワークショップで地域住民の意見を聞き、地域ニーズを反映した公園整備を行うことで、これまで以上に利用される公園を目指す。計画段階から地域住民が参加することで公園への愛着を高め、地域活動など公園利用の活性化につなげる。計画策定後は、翌年から概ね2ヵ年で再整備を行う。

柱② 地域団体、NPO との協働等による子どもが主役の居場所づくり

No	取り組み名 担当課	概要
58 ⑧	子ども食堂開設支援事業 子ども家庭局・子育て支援課	地域のニーズに沿った、持続可能な子ども食堂の取り組みを支援するため、行政が調整役となり、子ども食堂ネットワーク北九州を中心に、開設や運営のサポートを、地域・企業・各団体・学校・行政等と連携を深めながら実施していく。 あわせて、現在実施している開設・運営支援補助や子ども食堂コーディネーターの配置、市民センターの有効活用などに加え、子ども食堂の運営に必要な「人・モノ・資金・場所」の確保策について検討する。
49 再掲	放課後児童クラブ「全児童化」の実施 子ども家庭局・子育て支援課	放課後児童クラブを設置するすべての小学校区で利用を希望する児童を受け入れる体制を維持する。
67 再掲	ユースステーションの運営 子ども家庭局・青少年課	中・高校生をはじめとした若者が、学習や体験、スポーツ・音楽活動、仲間との交流等を通じて、自己を発見し、社会性や自立性を身に付ける場となるよう「ユースステーション」の運営を行う。 また、各区には学習やスポーツ・音楽活動を行うことができる施設もあり、若者のニーズを把握しながら、こうした施設の活用や情報提供のあり方について検討する。
59	遊びの広場促進事業 子ども家庭局・青少年課	異年齢集団での遊びや自然体験、社会体験など、地域での体験活動・遊びの広場の輪を広げるため、他の団体・グループ活動の参考になる取り組みに対し補助金の交付を行い活動の支援を行う。
60	外遊び環境の充実（プレイパークの開催支援など） 子ども家庭局・青少年課	子どもたちが力いっぱい「遊び」「体験する」ことのできる「場」をしっかりと確保するため、子どもたちが自分の責任で自由に遊ぶ場であるプレイパーク（冒険遊び場）をNPO等と協働で実施するなど、外遊び環境の充実に取り組む。
61 ⑨	子どもが主体的に遊べる環境づくりの検討 子ども家庭局・青少年課	「子どもを中心に据えた遊び」の視点を取り入れた取り組みをあらゆる場所で推進する。また、様々な社会資源の掛け合わせによる、既存の居場所以外の遊びの場や居場所の検討も行う。

(参考データ)

○ 子どもの遊び場や公園に対する満足度

平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
39.9%	48.7%	52.2%	52.1%	52.2%

資料：「元気発進！子どもプラン」に関する市民アンケート調査（平成26年度）

「元気発進！子どもプラン(第2次計画)」に関する市民アンケート調査（平成27～30年度）

○ 子育て支援施設の利用者数

区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
子育てふれあい交流プラザ	424,810人	442,415人	450,762人	424,986人	442,451人
子どもの館	789,702人	818,267人	806,900人	809,090人	814,352人
親子ふれあいルーム	63,063人	64,145人	65,948人	60,643人	57,743人
児童館	651,601人	647,406人	658,070人	627,127人	637,106人

資料：子育てふれあい交流プラザ・子どもの館は、入館者総数

親子ふれあいルームは、親子の利用数

児童館は、来館者総数（放課後児童クラブを含む）

○ 子育て支援施設の満足度

区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
子育てふれあい交流プラザ	99.4%	99.2%	99.8%	99.8%	99.8%
子どもの館	98.4%	98.1%	99.4%	99.6%	99.7%
児童館	88.8%	88.2%	89.0%	90.8%	94.2%

資料：各施設の利用者へのアンケート調査により算出

○ 市内における子ども食堂の開設数

平成28年度	平成29年度	平成30年度
6	8	20

○ 子どもが過ごすことが多い場所（小学生）（抜粋）

区分	内容	平成25年度	平成30年度
平日 回答者数 H30:1,493人 H25:1,373人	1位 自宅（家族と過ごしている）	63.8%	68.1%
	2位 公園など屋外	56.7%	46.4%
	3位 学習塾や習い事等	47.3%	43.9%
日祝日 回答者数 H30:1,493人 H25:1,373人	1位 自宅（家族と過ごしている）	88.9%	91.4%
	2位 公園など屋外	38.2%	35.9%
	3位 祖父母等親族の家	—	23.6%

資料：北九州市 子ども・子育て支援に関する市民アンケート調査

注：順位は、平成30年度調査に基づく

注：複数回答

○ 子ども（小学生）の地域とのつながり

区分	年度	よくある	たまにある	ほとんどない	まったくない	わからない	無回答
近隣の大人とのコミュニケーション 回答者数 H25:1,373人 H30:1,493人	平成25年度	39.3%	46.7%	10.9%	1.5%	1.3%	0.4%
	平成30年度	26.9%	48.0%	19.2%	3.1%	2.3%	0.5%
異年齢の子どもとの日常活動 回答者数 H25:1,373人 H30:1,493人	平成25年度	40.6%	41.0%	13.5%	4.4%	0.2%	0.4%
	平成30年度	38.8%	39.3%	16.5%	3.8%	1.3%	0.3%

資料：北九州市 子ども・子育て支援に関する市民アンケート調査

○ 子ども（小学生）と近隣の大人がコミュニケーションをとる機会（抜粋）

区分	内容	平成25年度	平成30年度
回答者数 H30:1,119人 H25:1,180人	1位 学校の登下校中の路上	74.0%	68.9%
	2位 家の近くや公園などで、遊んでいる時	68.2%	61.5%
	3位 子ども会の行事など地域活動の最中	31.9%	26.7%

資料：北九州市 子ども・子育て支援に関する市民アンケート調査

注：順位は、平成30年度調査・平成25年度調査とも1~3位は同じ

注：複数回答

○ 子ども（小学生）が異年齢の子どもと交流している場（抜粋）

区分	内容	平成25年度	平成30年度
回答者数 H30:1,167人 H25:1,120人	1位 家の近所などで、日常的に遊んでいるとき	62.6%	56.2%
	2位 野球やサッカー、テニス等のスポーツ活動	42.1%	45.9%
	3位 子ども会をはじめとした地域活動	23.8%	20.5%

資料：北九州市 子ども・子育て支援に関する市民アンケート調査

注：順位は、平成30年度調査・平成25年度調査とも1~3位は同じ

注：複数回答